

大草谷津田いきものの里 自然観察会

冬鳥がやってきた

太田慶子（千葉市）

日 時：2013年12月15日（日）10：30～12：00 天候：快晴

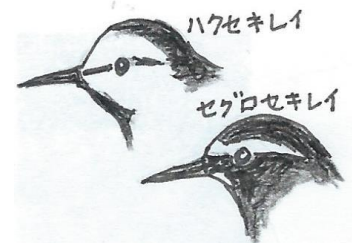
参加者：14名（大人11名 子ども3名）

担当指導員：太田慶子・木下順次

朝からすっきりした青空が広がった。開始時間まで来ていた参加者に見られそうな鳥のイラストを見せたりする。

最初に「いきものの里」についての説明の後、「テーマになっている『冬鳥』とは北の方から日本に越冬のためにやってくる野鳥のことをいう。他にこの季節には漂鳥といって春夏は北日本や山地で過ごし、秋冬を平地に移動して過ごす鳥と、一年中見られる留鳥がいる」と話す。「ところが、今冬は代表的な冬鳥であるツグミの姿がほとんど見えない。理由は<1 繁殖地が暖かくて餌が取れる、2 北日本には来ていてもそこで餌が取れるので平地まで来ていない、3 すごい寒気に覆われた日本列島を避けている>といったことが考えられるが、前者2つのいずれかでしょう」と言うと、参加者の1人が「昨日近くの森でツグミやアカハラなどがいっぱい木の上にあった」と話された。「きっとツグミは群れでやってきたばかりで、まだ自分の越冬場所を決めていないので樹上にいるのですよ」と。その方は「いつもなら開けた田んぼなどにポツン、ポツンといるので、そうですか、やって来たばかりの時は樹上にいるのですか」と納得された。

歩きだしても鳥はなかなか出てこない。いる！と思っても、小鳥が高い木の上の方で鳴いているという状態が多く、双眼鏡でとらえるのは難しい。アオジ、ヒヨドリ、エナガ、コゲラ、ヤマガラなどの声……。開けた[めじろんば]に出ても、天気が良いすぎるのか、朝いたカシラダカの群も出てこない。田にはセグロセキレイがペアでいた。ハクセキレイは街中でもよく見かかるが、黒っぽいからといってセグロセキレイではなく、過眼線があればハクセキレイと、イラストで説明する。モズのメスがわずかに見られた。一瞬、ノスリらしいのが通過。猛禽であるノスリは下から見上げると、ベージュ色の羽の真中あたりに茶色っぽいところがあるのが特徴で、この冬は大草でよく見られる。



帰りにキセキレイが出て来てくれた。セグロセキレイ同様、尾を上下に動かすのがセキレイの特徴だが、腹が黄色できれい。セグロセキレイは、濁ったジィ、ジィという声を出して飛んでいくが、キセキレイは澄んだ声で鳴く。

「鳥の活動は朝早いので、バードウォッチングはもっと早い時間の方がいいですよ。それなら、大草の田んぼに氷が張っているのも見られるし・・・（実際9時過ぎには氷が張っていた）」と早朝の野鳥観察を勧めた。

参加者からは<鳥を声で見分けるようになりたい、大草は30種くらいいるかと思ったが水鳥がないから20種弱だった>。「あぜ草にまぎれず跳ねてキセキレイ」は俳句のために自然豊かな大草に来られるという方の即興句。

双眼鏡とノートを持ってきて、鳥の名をメモってくれた女の子と鳥合せをすると、アオジ、ヒヨドリ、ヤマガラ、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、カワラヒワ、ハソブトガラス、キジバト、ウグイス、モズ、スズメ、アカハラ？、ノスリ、セグロセキレイ、キセキレイの17種でした。

